

(2) 教科の課題と指導改善のポイント

※ 今年度の課題の設問のうち、継続的な課題となっている設問は、第2章に指導事例を掲載している。

小学校 国語

問題 五 3

文章の構成 通過率52.5%

この設問は、平成 21 年度全国学力・学習状況調査と同じ問題である。小学校学習指導要領国語における、第3・4学年「書くこと」の言語活動例で、実用的な文章としての手紙を書く言語活動も取り上げられている。そのため、今年度新しく出題した問題である。

はがきの表書きに必要な事柄の順序を考えて書く力に課題がある。

■ 同一問題

平成 21 年度全国学力・学習状況調査 国語A3
広島県 68.5% (全国 67.0%)

4 相手の住所
3 自分の住所
2 相手の名前
1 自分の名前

つよしさんは、山田さんを送りたいする手紙を、はがきに書いて送ります。
次のア～エの中に入るふさわしいものを、下の1～4の中からそれぞれ一つずつ選び、その番号を書きましよう。

	誤答と無解答	割合 (%)
1	自分の住所と自分の名前の位置が逆	8.5
2	相手を先に書くことは分かっているが、名前を先(ア、ウ)に書いて住所を後(イ、エ)に書いている	7.2
3	相手を先に書くことは分かっているが、名前を先(ア、イ)に書いて住所を後(ウ、エ)に書いている	6.4
4	自分の住所と名前を書く位置は分かっているが、相手の住所と名前の位置が逆	3.4
5	相手を先に書くことは分かっているが、住所を先(ア、イ)に書いて名前を後(ウ、エ)に書いている	1.4
6	住所と名前の順番は分かっているが、自分を先(ア、イ)に書いて相手を後(ウ、エ)に書いている。	0.8
7	上記以外の解答	18.4
8	無解答	1.4



誤答1～7

はがきの表書きに書く名前と住所の順番を正しく理解していない。【46.1%】

学習した後に実際に手紙を書く活動をいろいろな場面で設けていますか？

- 定着を図るためには、国語科（書写の指導も含む）での学習のみで終わらせず、他教科・領域等と関連させ、実際に手紙を書く活動をいろいろな場面で設け、継続した指導を行うことが大切です。実際に手紙やはがきを書く活動を設けることによって、手紙やはがきを出すよさも実感させましょう。
- 日常生活の中にある手紙やはがきを書く機会（暑中見舞いや年賀状等）を捉えて指導することも効果的です。

文章の推敲 通過率57.6%

この設問は、推敲の力を問う問題として、今年度新しく出題した問題である。

招待する手紙に応じた推敲の観点の理解や「下書き」と「清書」を比較して違いを見付けることに課題がある。

- ア 文の終わりを「です」「ます」で、
ていねいに書いていること。
- イ 日時と場所を、整理して、分かりやすく書いていること。
- ウ 疑問に思ったことを、くわしく調べて書いていること。
- エ 終わりのあいさつを書いていること。

国語の時間に、人をしようたいする手紙の書き方を学んだつよしさんは、どのようなことに注意して下書きを直したのでしようか。次のア～エの中から、あてはまらないもの一つを選び、その記号を□の中に書きましょう。

誤答と無解答	割合(%)
ア	20.1
イ	15.3
エ	5.4
無解答	1.4

誤答ア

文末の違いに気付いていない。
【20.1%】

誤答イ

日時と場所が整理されて書かれていることに気付いていない。【15.3%】

誤答エ

終わりのあいさつが付け加わっていることに気付いていない。【5.4%】

誤答ア・イ・エ

問題文「あてはまらないものを選ぶ」を正しく読み取らず、「あてはまるもの」を選んでいる。

➡ 文章を書かせるだけで終わっていませんか？

- 文章を書かせるだけでなく、低学年から、文章を読み返す習慣を付けさせましょう。
- 「下書き」と推敲後の文章を比べるなどの工夫をして、児童自身が間違いなどを正したり、よりよい表現に書き直したりすることによって整った文章になることのよさを実感できるようにすることが大切です。
- 交流に関する指導事項との関連を図り、書いた文章を読み合う中で、「書き手」の立場からだけでなく、「読み手」の立場からも文章を評価させることも効果的です。
- 文章の種類(感想文、報告文、観察記録文、手紙等)に応じた指導をしましょう。

①「文章の間違いを正す」ことでは、

- ・主語と述語及び修飾と被修飾の関係
- ・長音、拗音、促音、撥音、助詞(「は」「へ」「を」など)の表記の仕方
- ・敬体と常体、断定や推量、疑問などの文末表現の使い方 など

②「よりよい表現に書き直す」ためには、

- ・相手や目的に応じているか、自分の考えを明確に記述しているかなどから表現の検討をしましょう。←単元のねらいに即した指導内容との関連が大切です。

【推敲するポイント】

理由を挙げた記述 通過率59.3%

この設問は、平成 19 年度、平成 21 年度全国学力・学習状況調査と類似の問題である。複数年にわたり課題が見られたため、今年度新しく出題した問題である。

複数の内容を含む文を分析的・統合的に理解することに課題がある。

■ 類似の問題

平成 19 年度全国学力・学習状況調査 国語A5
広島県 62.3% (全国 57.8%)

平成 21 年度全国学力・学習状況調査 国語A8
広島県 17.6% (全国 14.7%)

⑦ 毎日リコーダーの練習をしているので、低い音がきれいに出来るようになってきたので、山田さんにぜひ聞かせてほしい。

つよしさんは、下書きの ⑦ の一文が長すぎるため、① の中に、二文に分けて書き直すことにしました。
どのように書くかよいですか。一文ずつ の 中の書きましよう。

	誤答と無解答	割合 (%)
1	⑦の文に含まれている3つの内容のうち、どれか1つが抜けている。	10.7
2	敬体で書かれていない。	6.5
3	上記以外の解答	19.1
4	無解答	4.4



誤答1

「～ので」に着目して、一文の中に3つの内容が含まれていることを理解する力が不十分である。 【10.7%】

➡ 接続語を有効に使わせる指導をしていますか？

- 「書くこと」の領域の記述や推敲の指導をする際に、長い一文を接続語を使って簡単な複数の文に分けさせましょう。また、内容のまとまりを箇条書きにした複数の文を、接続語を使ってまとまりのある文章にする指導も大切です。
- 複数の内容を含んで意味が分かりにくくなっている一文を取り上げて、幾つの内容が含まれているかを考えさせたり、内容のどこで文を分けて書いたらよいか考えさせたりしましょう。
- 自分が伝えたいことによって、文を切る箇所が変わってきます。一文の中で因果関係を明確にした文構造を指導しましょう。
- 「書くこと」の領域の指導においてだけでなく、他の領域での記述や日記指導といった様々な場面を捉えて、短い文で簡潔に分かりやすく書かせる指導が大切です。